

## 「出題の意図」

選抜区分	2024年度（選抜区分：一般選抜 前期日程） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：課題論文）
出題の意図 （評価のポイント）	<p><b>1. 課題論文における出題の背景と求める能力</b></p> <p>「地域創生を考え実行していく際に必要な知識に関連こと」、「地域創生学群の学生に備えておいて欲しい能力に関連する内容を含んでいること」、および「受験生にとって平易に理解できること」の三点を出題文の選定基準とした。その結果、宇野仙著『SDGsは地理で学べ』ちくまプリマー新書、の中から「誤解されてきた日本の「コンパクトシティ」」を出題文とした。</p> <p>設問は、「以下の文章を読み、日本におけるコンパクトシティの議論を巡るこれまでの経緯について筆者が説明していることを200字程度でまとめなさい。そのうえで、日本でコンパクトシティ化が進んでいく場合、地域社会において生じることが懸念される課題（問題点）について、あなたの考えを論じなさい。分量は全体で400字以内とする。」とした。</p> <p>設問の意図は、本文の内容および設問の指示を正しく理解する読解力を有しているか、また、自分自身の考えを論理立てて記述する能力を有しているか、を見ることにあった。加えて、自分の意見を他者に伝えるスキルとして正しい日本語を使うことができるか、一定の語彙力を有しているかも評価のポイントとした。</p> <p><b>2. 解説</b></p> <p>出題文は、ヨーロッパと日本のコンパクトシティを巡る動向の比較を概括的に行ったうえで、近年の日本においてコンパクトシティを志向する動きが活発化している背景・理由に関する筆者の考えを論じている。</p> <p>設問においては、①筆者が説明していることをまとめること、②地域社会に生じることが懸念される課題について自分自身の考えを論じること、の二点を求めている。</p> <p>①については、200字程度という限られた分量のなかで、筆者の説明を理解し的確に要約できているかが評価のポイントとなる。②については、出題文がコンパクトシティの推進について肯定的な観点を中心に論じていることに対し、コンパクトシティの推進に際しての懸念事項を自分自身の考えとして論じていることが評価のポイントとなる。コンパクトシティの概念を一定程度理解したうえで、地域社会に焦点を当てて論理性の高い記述を行った回答に対しては高い評価を与えている。</p>

## 「出題の意図」

選抜区分	2024年度（選抜区分：一般選抜 前期日程） 地域創生学群 地域創生学類（科目名：集団討論）
出題の意図 （評価のポイント）	<p>一般選抜入試では、地域社会の諸問題に強い関心を示し、探究心を持つ学生を求めている。地域創生学群では、求められている課題を的確に理解し、それに応じて自分の考えを明確に表現できること、地域の方々と協働していくための基本的なコミュニケーション能力を有していること、課題に対して主体的かつ積極的に関わろうとしていること等が重要になる。集団討論の評価のポイントは、これらの点に置いている。</p> <p>今回の2024年度一般選抜入試においては受験生が面接室に入室後に集団討論課題を提示する方式とした。課題の内容は、下記①②の両方にグループで取り組むこととした。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・課題①：SDGsの17のゴールの中からグループで一つを選び、そのゴールの達成が大切であることを小学校低学年の子どもに4分以内で伝える「紙芝居」を、画用紙3～10枚で一つ作成すること。制限時間は25分間とする（画用紙に書き込む時間を含む）。</li><li>・課題②：課題①で作成した「紙芝居」を、面接官に向けて発表すること。発表時は面接官を小学校低学年の子どもと仮定すること。制限時間は4分以内とする。</li></ul> <p>また、留意点として「SDGsのどのゴールを選ぶかは評価対象に含まない。」「字や絵の巧拙は評価対象に含まない。」等を示した。</p> <p>さらに注意事項として、「この集団討論は、求められた課題を的確に理解し、それに対する自らの考えを他者との積極的な議論を通じて深めつつ、課題のとりまとめに協働して貢献することができるか等について、受験生一人ひとりの力を評価するものです。」と文章で明示し、評価のポイントが主にどこに置かれているかを受験生に示したうえで集団討論への取り組みを求めた。</p> <p>課題内容については、この評価ポイントについて評価するために適切なテーマ・方式で、かつ近年に社会的関心が高まっているトピックを対象とする観点から作成した。</p>